

# 中小企業景気動向調査

〔2015年7～9月期の景況/10～12月期の予想〕

## 【調査要項】

実施期間:2015年8月24日～9月4日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 1000社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	432	134	67	33	155	43	41	95	1000
回答数	392	119	60	31	143	41	36	86	908
回答率(%)	90.7	88.8	89.6	93.9	92.3	95.3	87.8	90.5	90.8



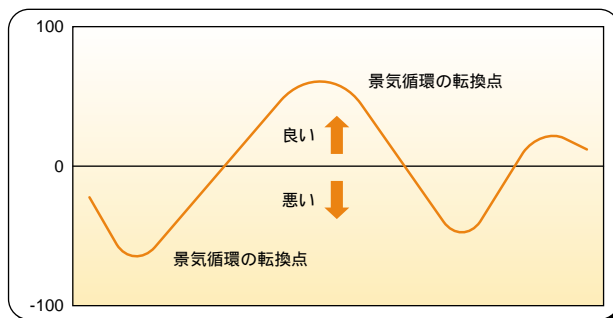
## DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

7～9月期の景況

景況感が2四半期ぶりに改善。

自動車部品製造業のDIは悪化。4四半期連続の減収減益。

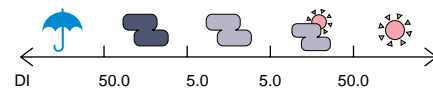
幅広い業種で残業時間が増加、人手不足感さらに広がる。

10～12月期の予想

製造業の景況感悪化へ。景気先行き懸念。

非製造業は引き続き改善、DIはプラスへ。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	4～6月期 (前回)	7～9月期 (今回)	10～12月期 (予想)	業種	4～6月期 (前回)	7～9月期 (今回)	10～12月期 (予想)
全産業	5.2	3.6	1.4	印刷	50.0	63.6	54.5
製造業	11.9	8.4	9.8	食料品	0.0	0.0	24.2
非製造業	0.2	0.0	4.9	卸売業	3.1	8.5	4.3
自動車部品	18.0	21.0	13.3	小売業	13.4	11.7	20.3
機械器具部	6.8	9.6	7.2	飲食業	17.3	12.9	0.0
金属製品	5.5	18.4	13.1	建設業	2.1	11.3	13.5
窯業・土石	41.1	29.4	23.6	不動産業	15.0	20.0	22.5
木材・木製品	42.8	50.0	33.3	運輸業	0.0	11.4	29.4
繊維製品	7.7	19.3	15.4	サービス業	8.7	8.2	4.8

業況判断

	前回	今回	予想	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	5.2	3.6	1.4	1.6		2.2	
製造業	11.9	8.4	9.8	3.5		-1.4	
非製造業	0.2	0.0	4.9	0.2		4.9	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

【全産業】

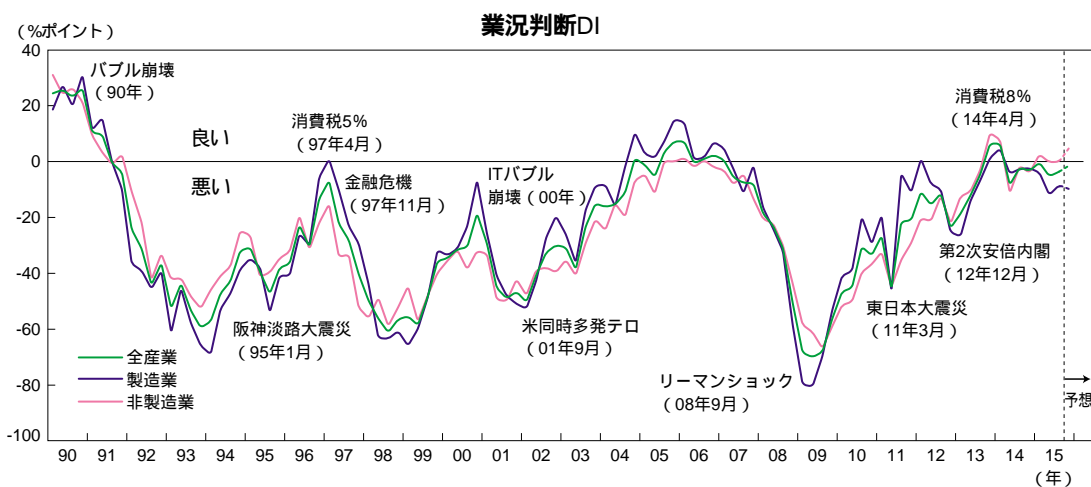
7～9月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス3.6となり、4～6月期（マイナス5.2）にくらべ1.6ポイント改善した。改善は2四半期ぶり。

10～12月期の**予想業況判断DI**はマイナス1.4と、2.2ポイント改善する見通し。

【製造業】

**業況判断DI**はマイナス8.4。4～6月期（マイナス11.9）にくらべ3.5ポイント改善。3四半期ぶりの改善。

- ・ DIが改善したのは、機械器具部品、金属製品、窯業・土石。悪化したのは、自動車部品、木材・木製品、繊維製品、印刷。
- ・ 自動車部品の悪化は、新車販売が振るわなかったことや輸出が伸び悩んだことなどが響いた。
- ・ 機械器具部品は8四半期連続のDIプラス。機械設備の更新需要に加え、補助金効果が持続しているとみられる。



予想業況判断DIはマイナス9.8と、悪化の見通し。

- 自動車部品、窯業・土石、木材・木製品、繊維製品、印刷は改善の見通し。機械器具部品、金属製品、食料品は悪化を予想。

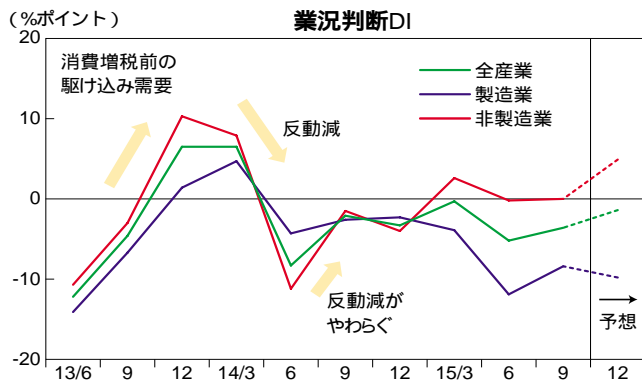
〔非製造業〕

業況判断DIは0.0。4～6月期（マイナス0.2）にくらべ0.2ポイント改善。

- DIが改善したのは、小売業、飲食業、建設業、不動産業、運輸業。悪化したのは、卸売業とサービス業。
- 卸売業は、農畜産物・水産物卸、機械器具卸、建設材料卸が悪化する一方、食料・飲料卸が1年半ぶりに持ち直した。
- 小売業は3四半期連続の改善。飲食業と不動産業は4四半期連続の改善。不動産業はリーマンショック前の水準まで景況感が回復。
- 建設業はDIのプラスが約3年間続いている。これは1992年以来23年ぶりのこと。公共工事を主力とする企業のDIが浮上するとともに、内装、電気、配管といった設備工事を主力とする企業の景況感も改善。
- 運輸業のDIは再びプラスへ。燃料価格の下落などがマインドを好転させたとみられる。
- サービス業の悪化は3四半期ぶり。法人向けサービス・個人向けサービスの双方が悪化。

予想業況判断DIは4.9。改善の見通し。

- 小売業を除くすべての業種で改善。



		7～9月期の業況	
		改善した業種	悪化した業種
製造業	機械器具部品 金属製品 窯業・土石	自動車部品 木材・木製品 繊維製品 印刷	
	食料品は変わらず		
非製造業	小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業	卸売業 サービス業	

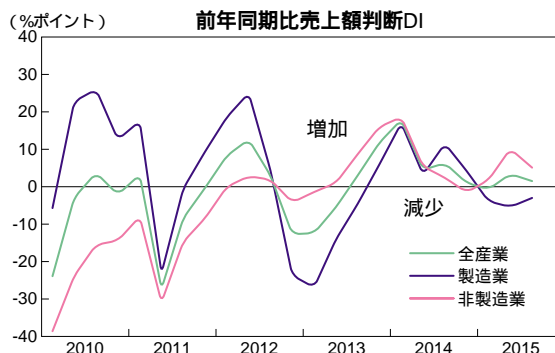
		10～12月期の予想	
		改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	自動車部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷	機械器具部品 金属製品 食料品	
	非製造業	卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	小売業

売上額・収益

〔全産業〕

**前年同期比売上額判断DI**（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は1.5〔増加〕。

**前年同期比収益判断DI**（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス2.7〔減少〕。

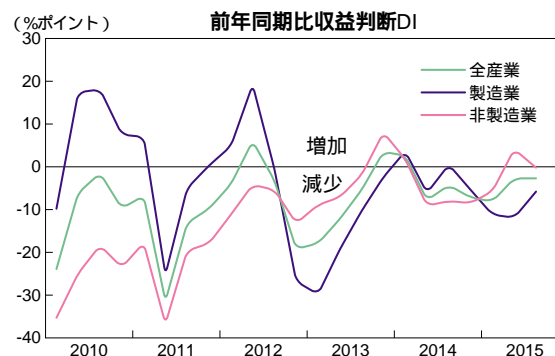


〔製造業〕

**前年同期比売上額判断DI**はマイナス3.0〔減少〕。

**前年同期比収益判断DI**はマイナス5.8〔減少〕。

- ・増収増益は、機械器具部品、金属製品、食料品。機械器具部品は8四半期連続。
- ・自動車部品は4四半期連続の減収減益。



〔非製造業〕

**前年同期比売上額判断DI**は5.1〔増加〕。

**前年同期比収益判断DI**はマイナス0.2〔減少〕。

- ・建設業、不動産業、運輸業、サービス業は増収増益。飲食業のなかには猛暑が売上増加に寄与した企業もある。

	前年同期にくらべた売上額	
	増加した業種	減少した業種
製造業	機械器具部品 金属製品 食料品	自動車部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷
非製造業	卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	小売業

	前年同期にくらべた収益	
	増加した業種	減少した業種
製造業	機械器具部品 金属製品 食料品	自動車部品 窯業・土石 木材・木製品 印刷
非製造業	建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業

繊維製品は変わらず

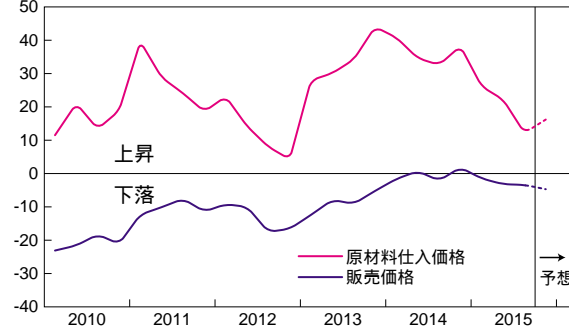
販売価格・仕入価格

〔全産業〕

**販売価格判断DI**（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.2〔上昇〕。

**仕入価格判断DI**（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は18.0〔上昇〕となった。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)

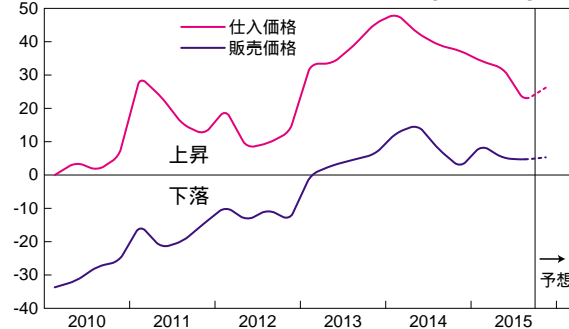


〔製造業〕

**販売価格判断DI**はマイナス3.4〔下落〕。

**原材料仕入価格判断DI**は12.2〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



〔非製造業〕

**販売価格判断DI**は4.6〔上昇〕。

**仕入価格判断DI**は22.2〔上昇〕。

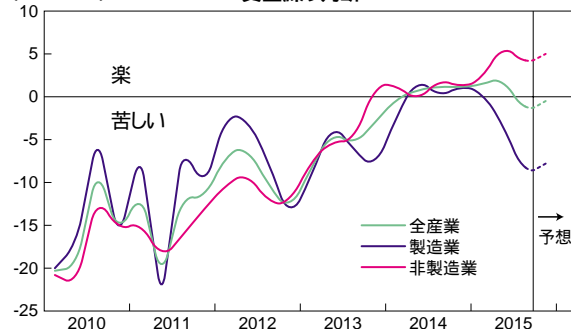
資金繰り

〔全産業〕

**資金繰り判断DI**（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス1.9〔苦しい〕。

**予想資金繰り判断DI**はマイナス0.5〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



〔製造業〕

**資金繰り判断DI**はマイナス9.2〔苦しい〕。

**予想資金繰り判断DI**はマイナス7.8〔苦しい〕。

〔非製造業〕

**資金繰り判断DI**は3.7〔楽〕。

**予想資金繰り判断DI**は5.0〔楽〕。

雇用

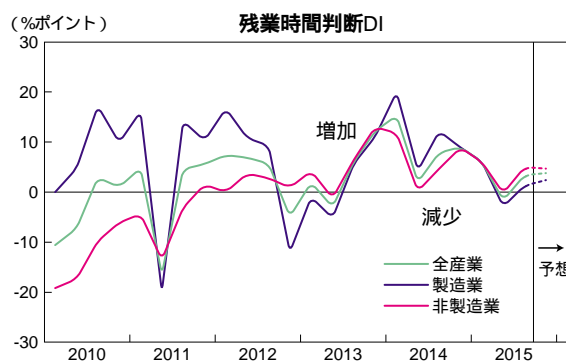
〔全産業〕

**残業時間判断DI**（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は3.4〔増加〕。

**予想残業時間判断DI**は3.8〔増加〕。

**人手過不足判断DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス27.1〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

**予想人手過不足判断DI**はマイナス31.0〔不足〕となっている。



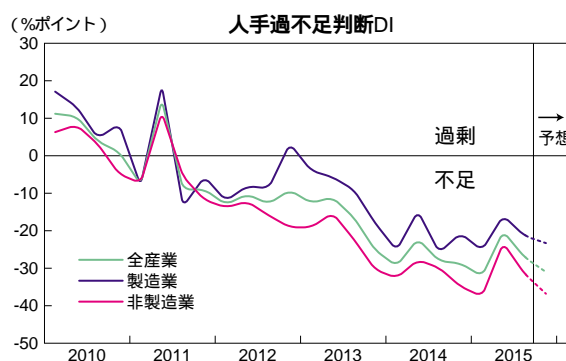
〔製造業〕

**残業時間判断DI**は1.3〔増加〕。

**予想残業時間判断DI**は2.4〔増加〕。

**人手過不足判断DI**はマイナス21.4〔不足〕。

**予想人手過不足判断DI**はマイナス23.3〔不足〕。



- ・ 窯業・土石を除くすべての業種で人手不足。

		3カ月前とくらべた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	機械器具部品 金属製品 繊維製品 食料品	自動車部品 木材・木製品 印刷	窯業・土石は変わらず
	卸売業 小売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	飲食業は変わらず	

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	（4人アイコン）	自動車部品 機械器具部品 金属製品 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品	窯業・土石は過不足感なし
	（4人アイコン）	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	

〔非製造業〕

残業時間判断DIは5.0〔増加〕。

予想残業時間判断DIは4.7〔増加〕。

- ・ 飲食業を除くすべての業種で残業時間が増加。

人手過不足判断DIはマイナス31.5〔不足〕。

予想人手過不足判断DIはマイナス36.8〔不足〕。

- ・ 2012年1～3月期から、すべての業種で人手不足の状態が続いている。
- ・ 運輸業界には「ドライバー不足で業務に支障をきたしている」「求人しても全く集まらない」といった声が強まっている。

設備

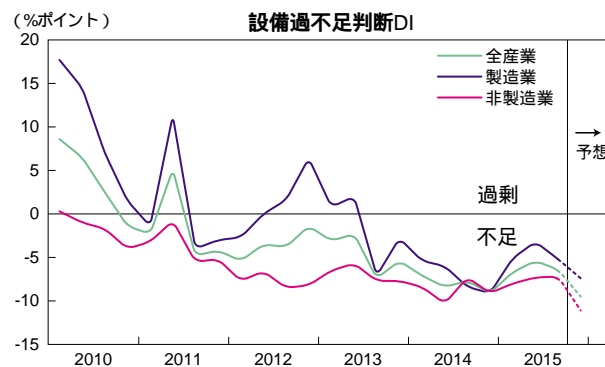
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス6.4〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス9.5〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は32.8%。

10～12月期に設備投資を計画している企業は28.1%。

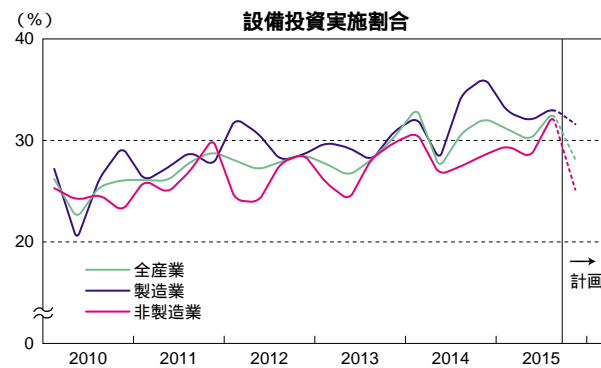


〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス5.2〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.4〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は33.2%。



- ・ 内訳は、「機械・設備の新増設」が51.2%、「機械・設備の更改」が30.1%、「車両」が24.4%、「事業用土地・建物」が19.5%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的は、「能力増強」が39.8%、「老朽化にともなう更新」が37.4%、「合理化・省力化」が29.3%などとなった。

10～12月期に設備投資を計画している企業は31.6%。



〔非製造業〕

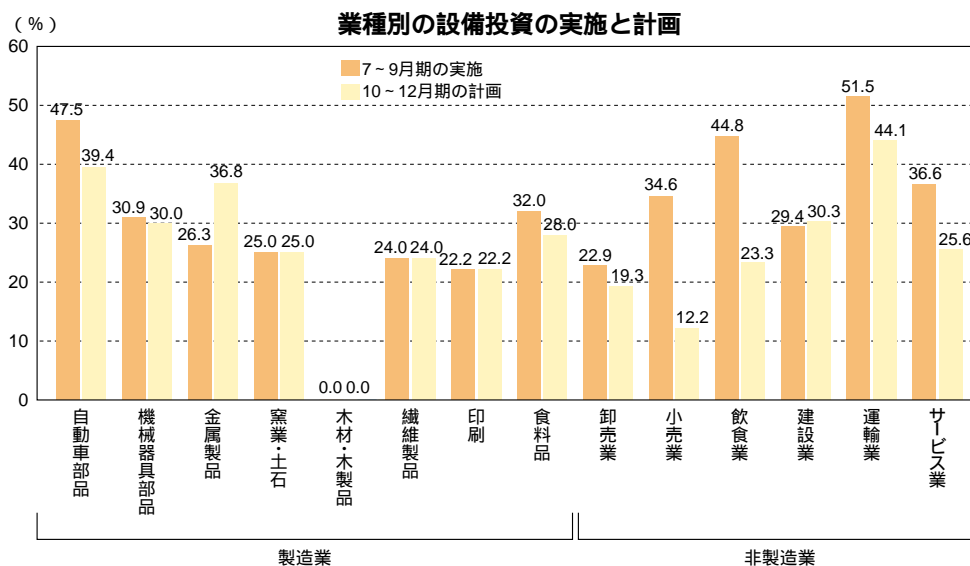
設備過不足判断DIはマイナス7.2〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス11.1〔不足〕。

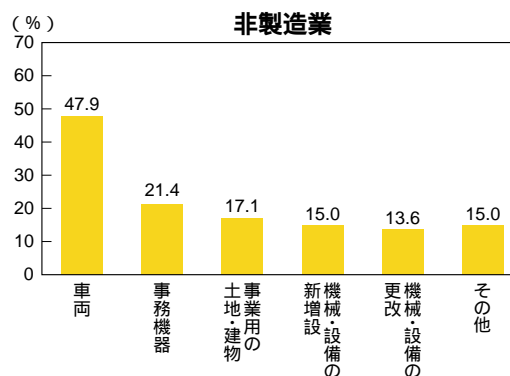
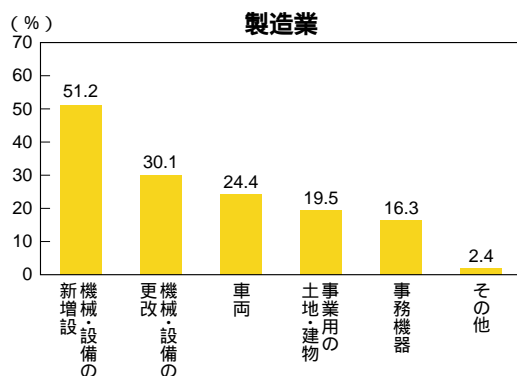
7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は32.5%。

- ・内訳は、「車両」が47.9%、「事務機器」が21.4%、「事業用土地・建物」が17.1%、「機械・設備の新增設」が15.0%などとなっている。
- ・設備投資の目的は、「老朽化にともなう更新」が60.0%、「販売拡大」が19.3%、「合理化・省力化」が15.0%、「競争力の維持・強化」が13.6%などとなった。

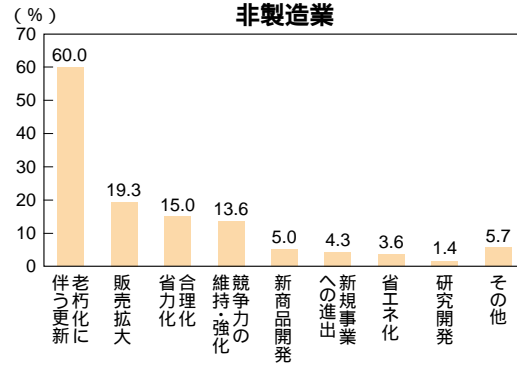
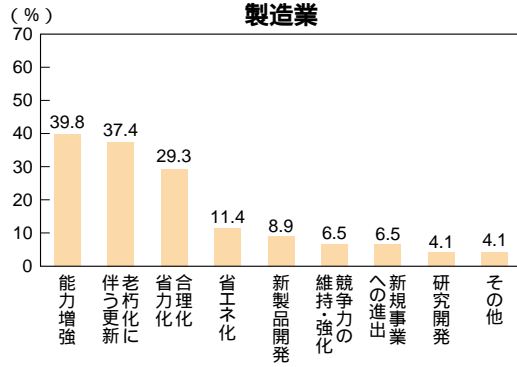
10～12月期に設備投資を計画している企業は25.1%。



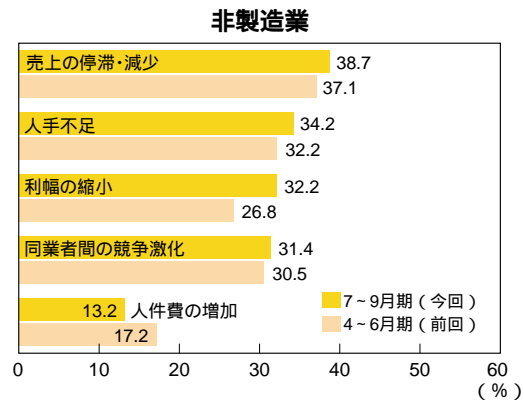
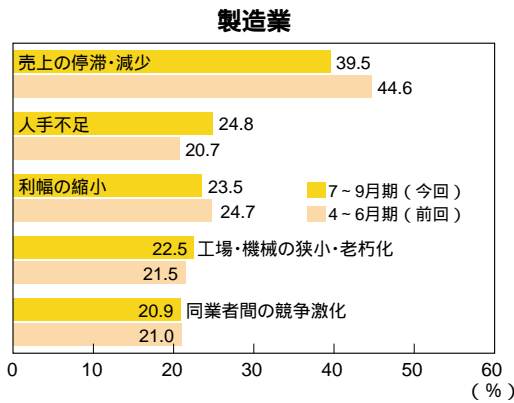
7～9月期の設備投資の内訳



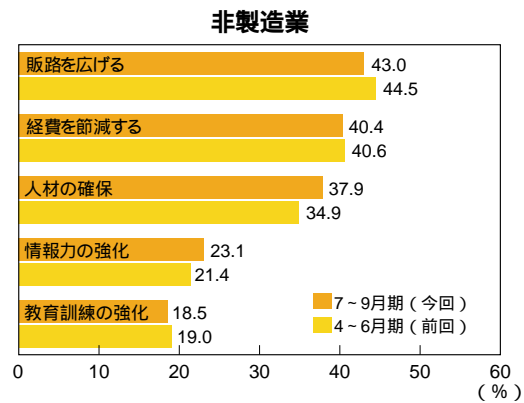
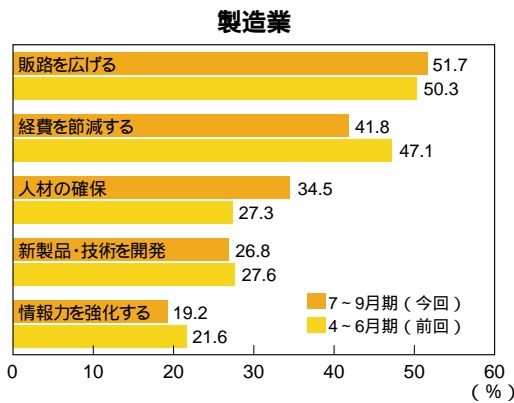
7～9月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



# 業種別動向

## 製造業 / 自動車部品

7～9月期の景況 ..... 2期連続のDI悪化、新車販売の不振などで  
 10～12月期の予想 ..... 人手不足感なお広がる、予想判断は改善へ

### 7～9月期の景況

業況判断DIは 21.0となり、4～6月期（ 18.0）に比べ悪化した。悪化は2四半期連続。前回調査時には改善が予想されていたが、予想に反した結果となった。新車販売が振るわなかったことや、輸出が伸び悩んだことなどが響いた。天津の爆発事故の影響も出ているとの声も一部であった。

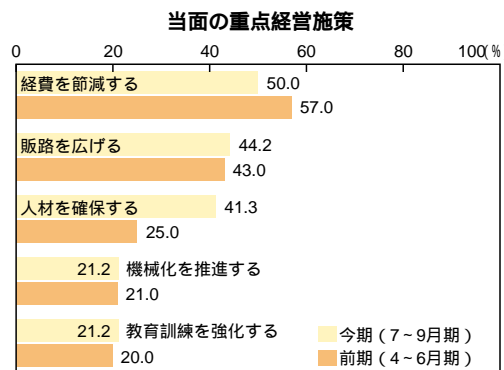
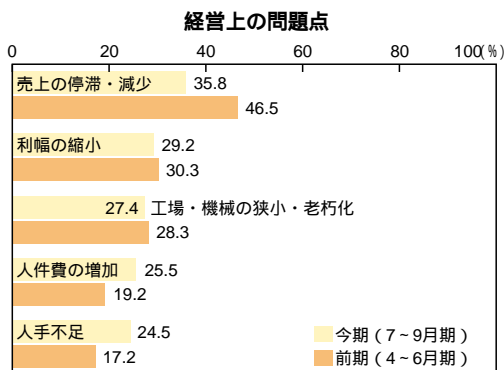
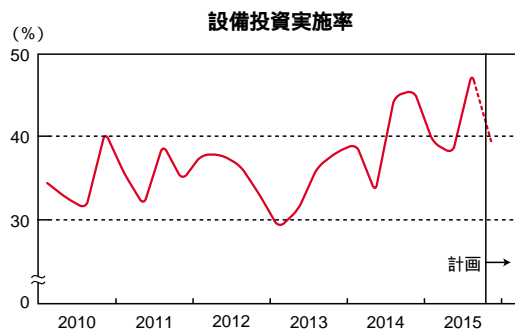
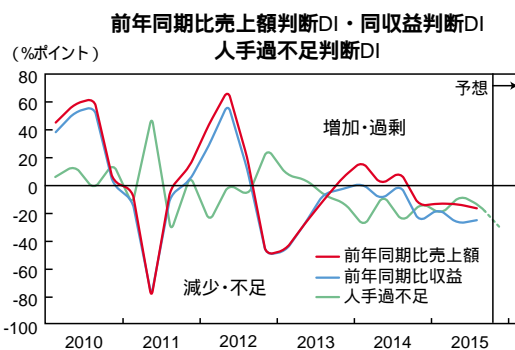
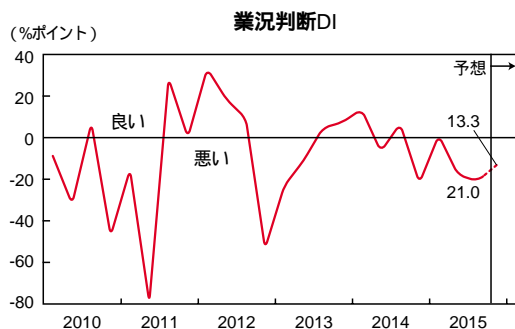
足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは 16.0〔減少〕、同収益判断DIは 24.5〔減少〕と、4四半期連続の減収減益。

人手不足感の広がりが、ふたたび目につくようになっている。問題点では「人件費の増加」「人手不足」のポイントが上昇、重点経営施策では「人材の確保」をあげる企業が急増している。

設備投資の実施率は47.5%。2008年7～9月期（51.7%）以来の高水準。

### 10～12月期の予想

予想業況判断DIは 13.3。7～9月期に比べ改善する見通し。売上や収益は上向くとみる向きも少なくないが、人手不足感はお広がる見込み。



7～9月期の景況 ..... 景況感8期連続プラス、人手不足は収まらず

10～12月期の予想 ..... 予想DIもプラス維持、先行き不透明な側面も

7～9月期の景況

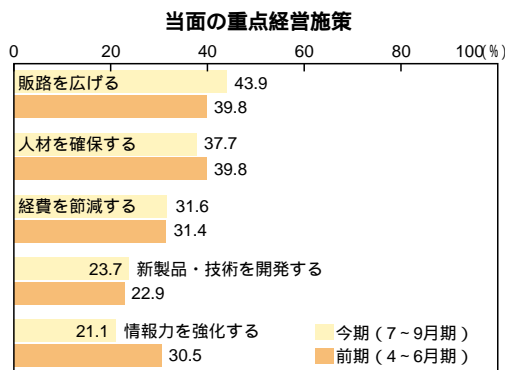
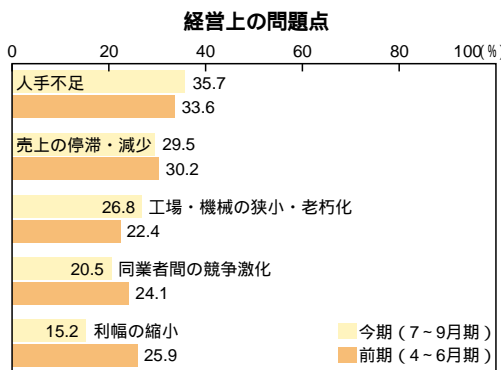
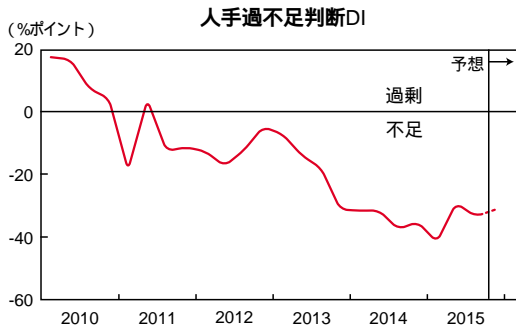
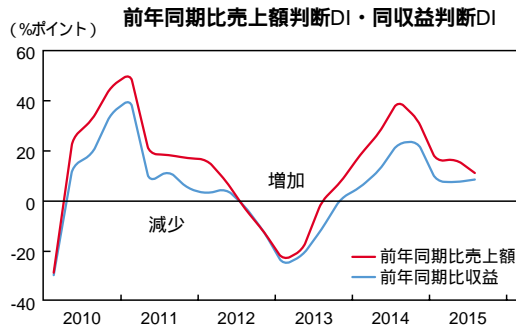
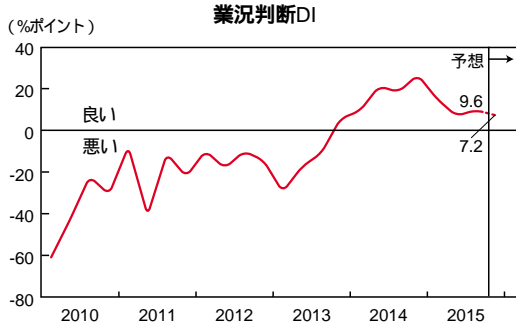
業況判断DIは9.6と、4～6月期（6.8）にくらべ改善した。改善は3四半期ぶり。DIのプラスは8四半期連続。足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DI・同収益判断DIもプラスを維持。機械設備の更新需要に加え、補助金効果が持続しているとみられ、総じて底堅い景況が続いている。

ただ、「売上の回復を期待していたが、まだ回復していない」「8月から景気の後退を感じる」といった声もあがっており、改善には跛行性もみられる。

経営上の問題点のトップにあがっているのは「人手不足」。不足は収まる心配がみられず、むしろ広がっている。人手過不足判断DIは 33.3〔不足〕。

10～12月期の予想

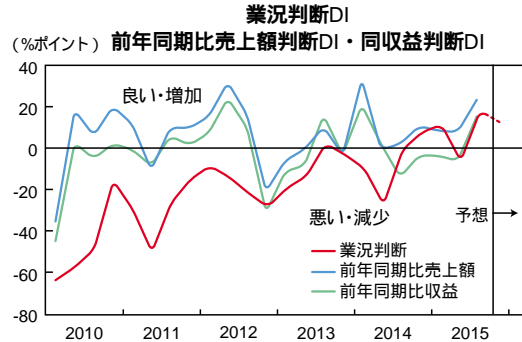
予想業況判断DIは7.2。7～9月期にくらべ悪化の予想だが、引き続きプラスを維持する見通し。中国の景気減速の影響を心配する企業もあり、先行き不透明な部分もある。



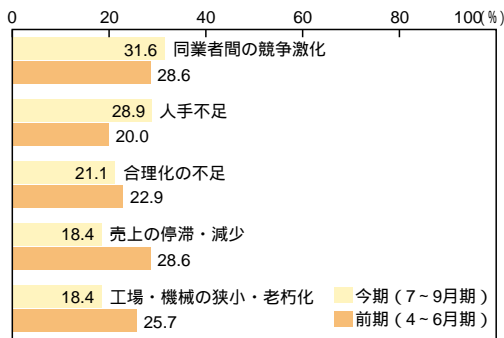
▶ 【金属製品】

業況判断DIは18.4と、4～6月期（5.5）にくらべ改善した。改善は2四半期ぶり。DIはプラスに浮上した。DIの水準としては「金属製品」として算出をはじめた2007年10～12月期以来もっとも高くなった。前年同期比売上額判断DIは23.7〔増加〕、同収益判断DIは15.7〔増加〕。1年半ぶりの増収増益。

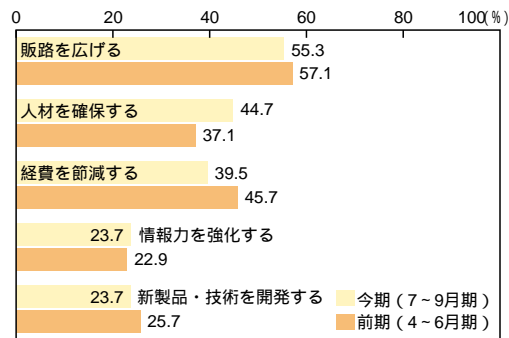
予想業況判断DIは13.1と、少し低下する結果となったが、プラスを維持する見通し。



経営上の問題点



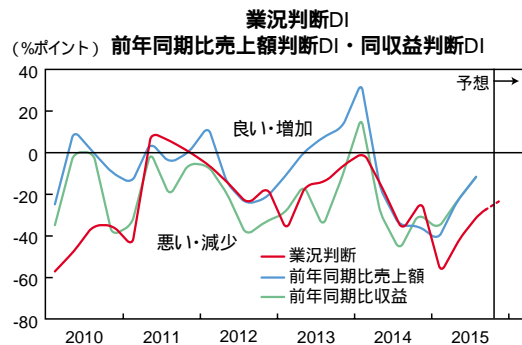
当面の重点経営施策



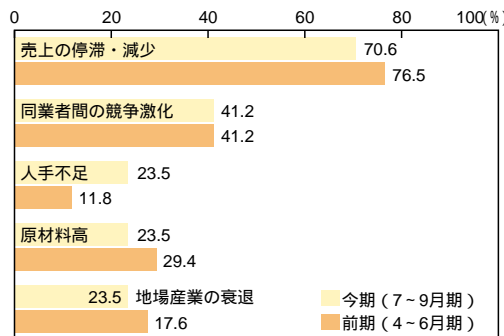
▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは29.4となり、4～6月期（41.1）にくらべ改善した。しかし、依然として水面下にあって景況感は冴えない。前年同期比売上額判断DIは11.8〔減少〕、同収益判断DIも11.8〔減少〕。製品在庫の増加傾向が続いているもよう。

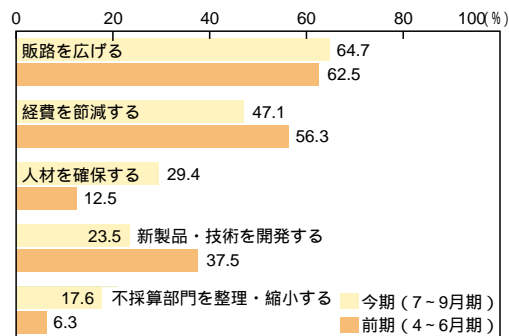
予想業況判断DIは23.6。改善が見込まれている。



経営上の問題点



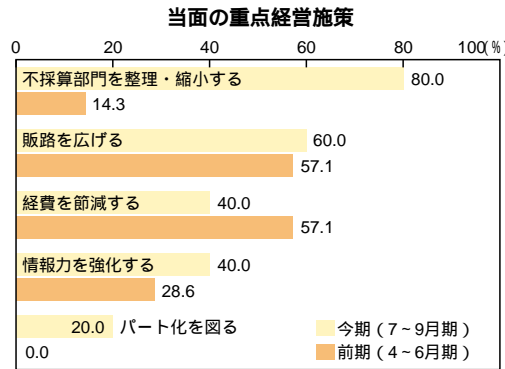
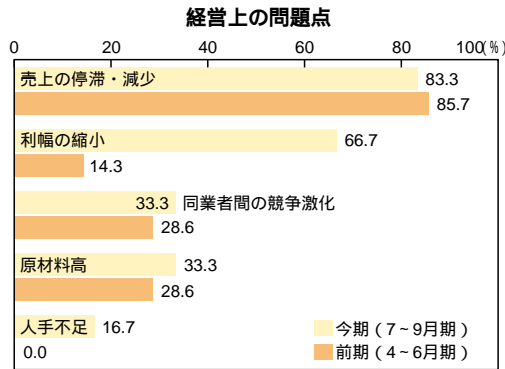
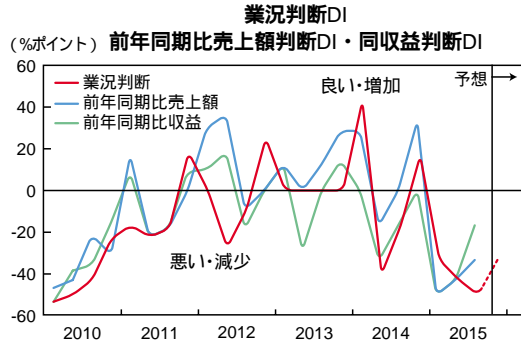
当面の重点経営施策



▶ 【木材・木製品】

業況判断DIは 50.0。4～6月期（ 42.8 ）  
 にくらべ悪化した。悪化は3四半期連続。前  
 年同期比売上額判断DIと同収益判断DIも、  
 ともにマイナス域にある。需要環境が好転  
 せず、経営上の問題点では引き続き8割を  
 超える企業が「売上の停滞・減少」をあげて  
 いる。

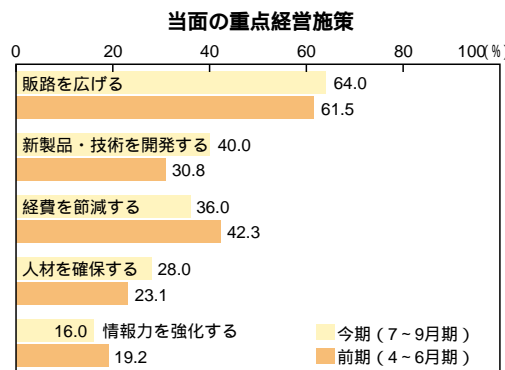
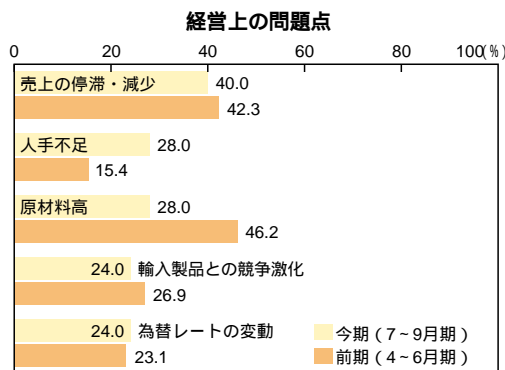
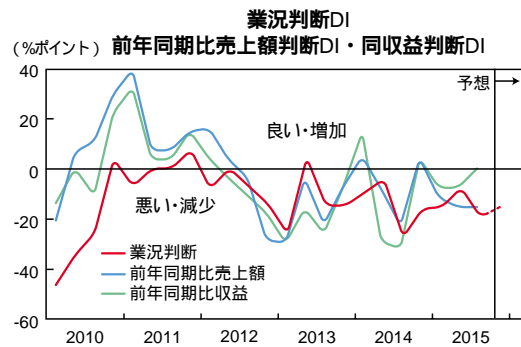
予想業況判断DIは 33.3。改善の見通し  
 だが、低調な状態が続くのではないが。



▶ 【繊維製品】

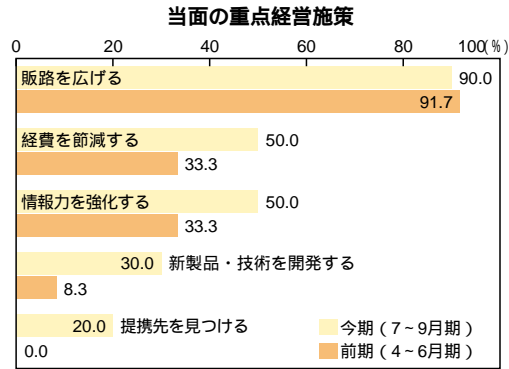
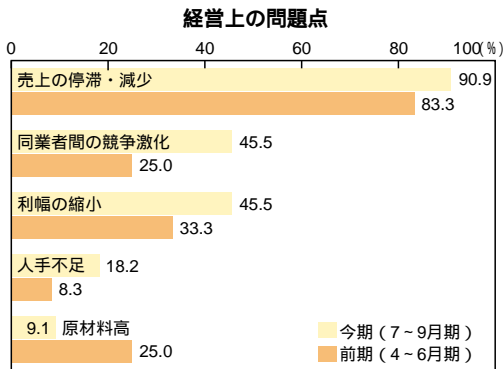
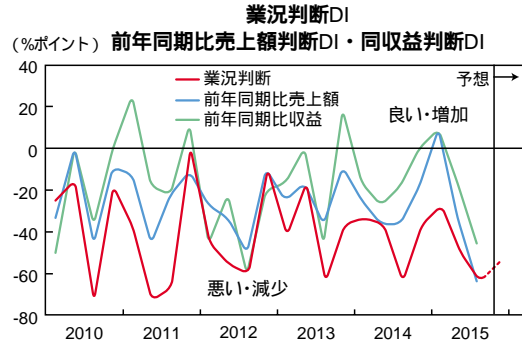
業況判断DIは 19.3と、4～6月期（ 7.7 ）  
 にくらべ悪化した。4四半期ぶりの悪化。総  
 じて冴えない状況だが、自動車向け資材を  
 生産する企業のなかには比較的堅調なとこ  
 ろもみられる。前年同期比売上額判断DIは  
 15.4〔減少〕、同収益判断DIは0.0。

予想業況判断DIは 15.4。やや改善の予  
 想。



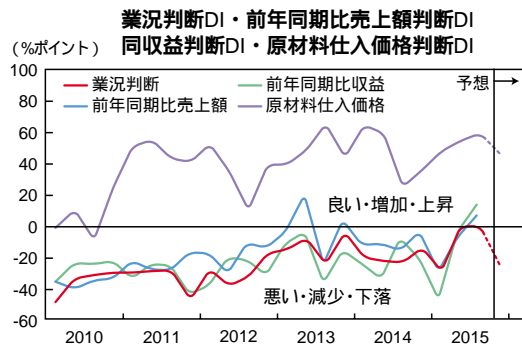
▶ 【印刷】

業況判断DIは 63.6。景況を「良い」と回答した企業が1社もなかった。DIは2006年10～12月期にマイナスに陥って以来、一度もプラスに浮上せず、厳しい業況が長引いている。経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」をあげる企業が9割に達し、「同業者間の競争激化」「利幅の縮小」のポイントが急増。予想業況判断DIは 54.5。

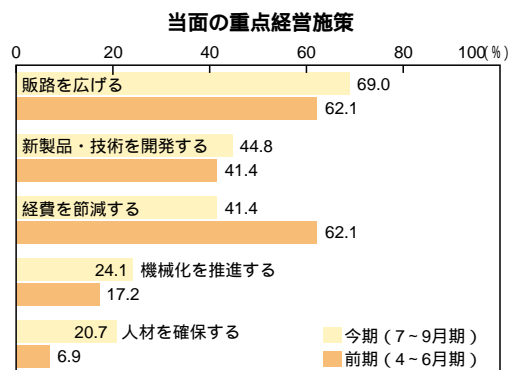
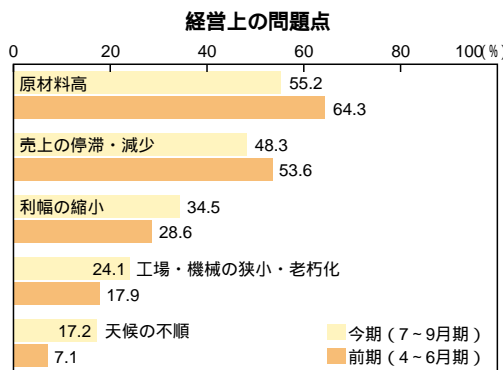


▶ 【食料品】

業況判断DIは4～6月期と変わらず0.0となり、景況感は横ばい推移した。前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIは、ともに増加域に転じている。売上額判断のプラスは7四半期ぶり。収益判断のプラスは2008年4～6月期以来、7年ぶり。ただ、円安や猛暑などで原材料仕入価格が高騰。懸念材料となっている。



予想業況判断DIは 24.2と、悪化の予想。



7～9月期の景況 ..... 景況感悪化、食料・飲料卸は持ち直し

10～12月期の予想 ..... 機械器具卸は大幅悪化へ、景気減速を懸念

7～9月期の景況

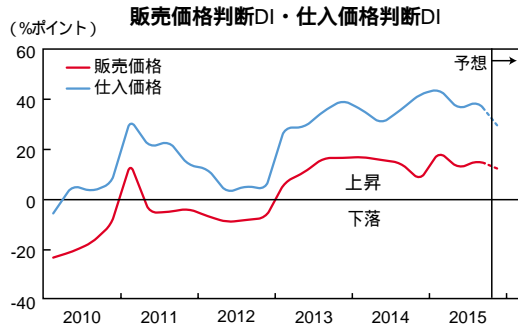
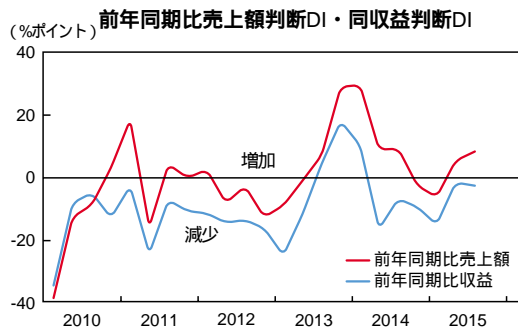
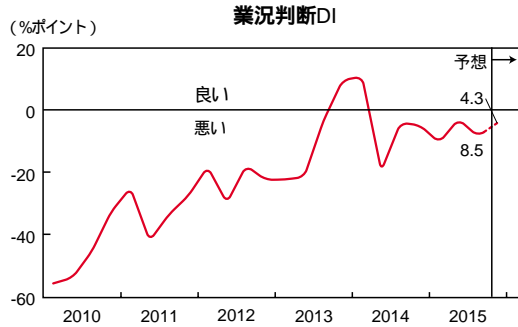
業況判断DIは 8.5と、4～6月期（ 3.1）に比べ悪化した。農畜産物・水産物卸、機械器具卸、建設材料卸が悪化する一方、食料・飲料卸が1年半ぶりに持ち直した。

総じて売上額は上向いているが、収益は上向いていない。前年同期比売上額判断DIは8.4〔増加〕、同収益判断DIは 2.5〔減少〕となった。仕入価格の上昇分の全部を転嫁できていないことが、収益回復を遅らせているようである。

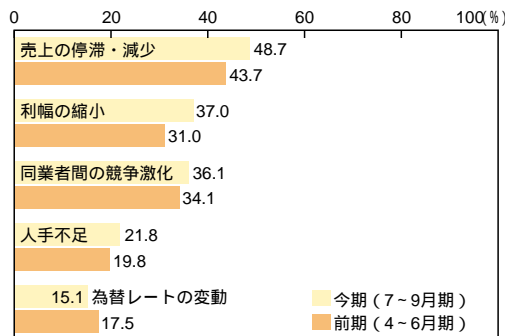
10～12月期の予想

予想業況判断DIは 4.3。7～9月期に比べ少し改善する見通し。食料・飲料卸は引き続き改善。機械器具卸は大幅悪化を予想。景気減速を懸念する企業が少なくないとみられる。

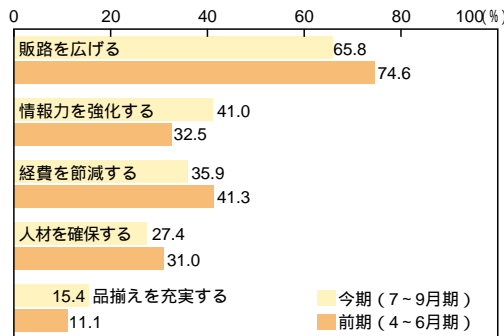
業況判断DI	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月 (予想)
農畜産物・水産物	33.3	16.6	19.1	14.3
食料・飲料	25.0	0.0	8.3	16.7
機械器具	25.0	43.4	32.0	4.0
建設材料	0.0	33.4	36.3	14.3



経営上の問題点



当面の重点経営施策





7～9月期の景況 ..... ふたたび減収減益に、転嫁が不十分な小売店も

10～12月期の予想 ..... 景況判断DI悪化へ、先行き警戒感も滲む

■ 7～9月期の景況

業況判断DIは 11.7と、4～6月期( 13.4) にくらべやや改善した。形としては3四半期連続の改善だが、DIは依然としてマイナス域にとどまっており、マインド回復が遅れている。足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは 23.8〔減少〕、同収益判断DIも 20.3〔減少〕と、ふたたびマイナス域へ没している。

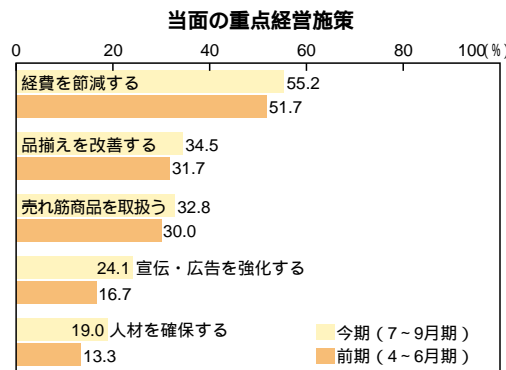
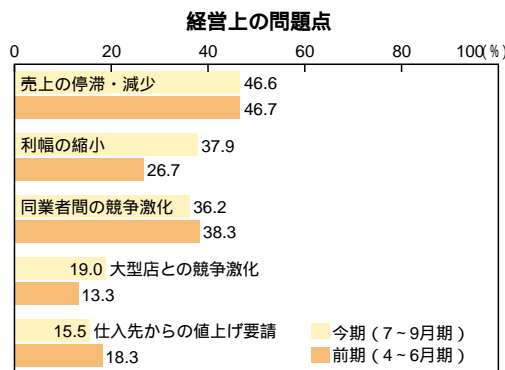
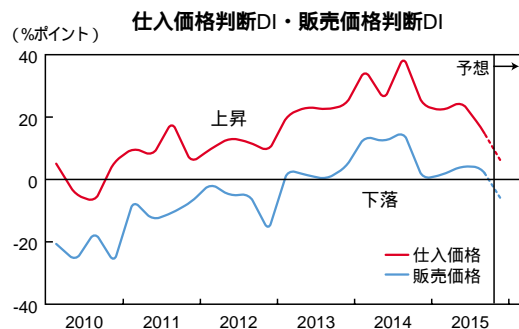
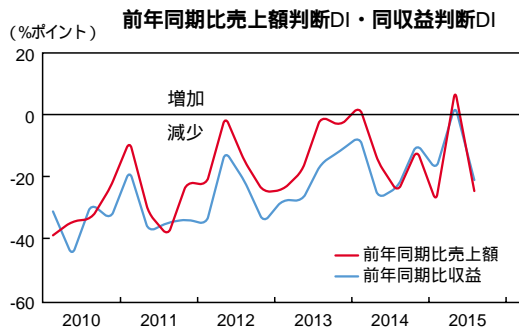
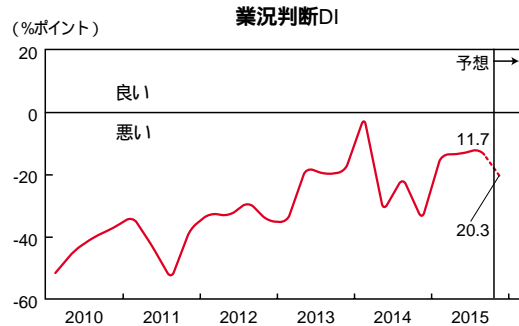
経営上の問題点をみると、「利幅の縮小」を指摘する企業が増えている。仕入価格の上昇を十分に販売価格へ転嫁できないでいる小売店が少なくないことがうかがえる。

■ 10～12月期の予想

予想業況判断DIは 20.3と、7～9月期にくらべ悪化する見通し。非製造業のなかで悪化を予想しているのは小売業のみ。

国内景気に足踏み感があり、消費者が財布のひもを締めるのではないかとの警戒感が滲んでいる。

当面の重点経営施策には「経費の節減」をあげる企業が半数を超えている。



7～9月期の景況 ..... 猛暑が増収に寄与、食材価格高は利幅縮小を招く  
 10～12月期の予想 ..... DIが8年ぶりの浮上へ、仕入価格と人手を懸念

▶ 7～9月期の景況

業況判断DIは 12.9。4～6月期（ 17.3 ）  
 にくらべやや改善した。改善は4四半期連続。  
 依然としてDIはマイナス域にあるものの、  
 マインドは着実に良化している。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断  
 DIは9.7〔増加〕。3四半期連続のプラス。今  
 夏が暑かった影響で「ビールやハイボール  
 がよく売れた」との声もあった。

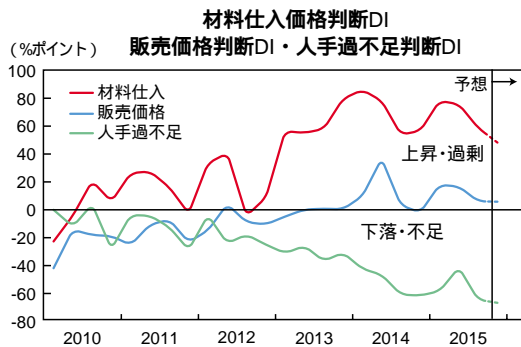
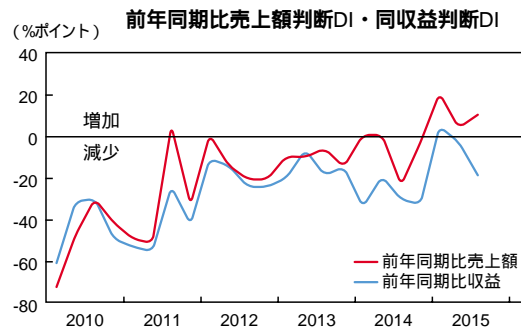
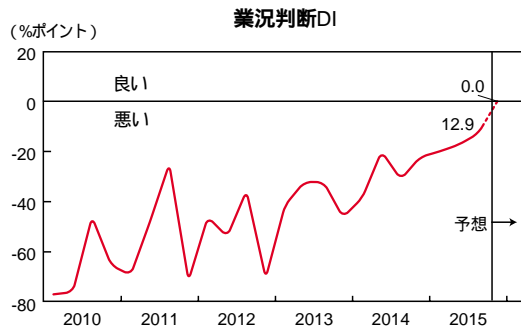
一方、同収益判断DIは 19.4と2四半期連  
 続でマイナス域に沈んだ。食材価格の上昇  
 を容易に転嫁できず、収益圧迫要因になっ  
 ている模様。「利幅の縮小」を経営上の問題  
 点と認識する企業が急増している。

人手不足感はさらに広がっている。

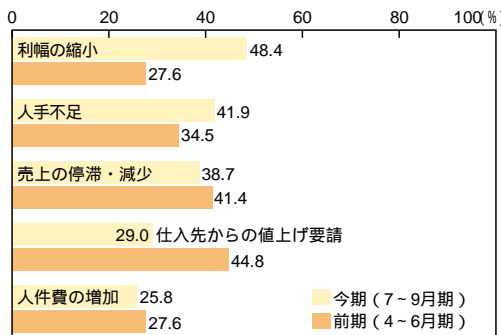
▶ 10～12月期の予想

予想業況判断DIは0.0と、久方ぶりにマイ  
 ナスを免れる見通し。予想通りならば、  
 2007年7～9月期以来、8年ぶりのことになる。

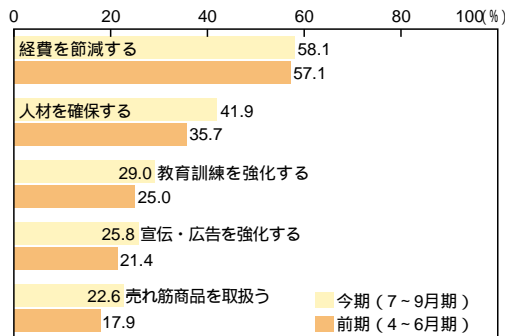
仕入価格の高止まりと人手不足は引き続  
 き懸念材料。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



7～9月期の景況 …… 業況判断DIのプラスが3年連続、23年ぶり

10～12月期の予想 …… 予想は横ばい、経営施策に「人材の確保」

7～9月期の景況

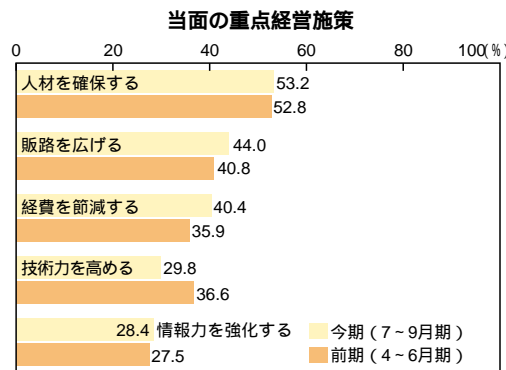
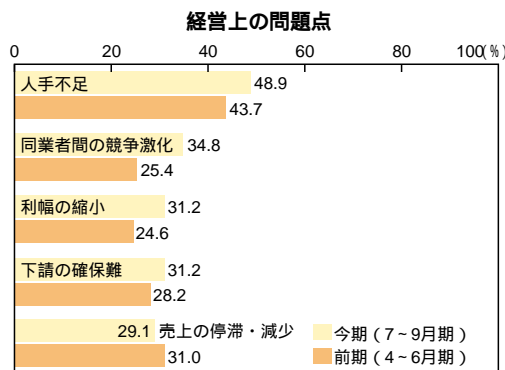
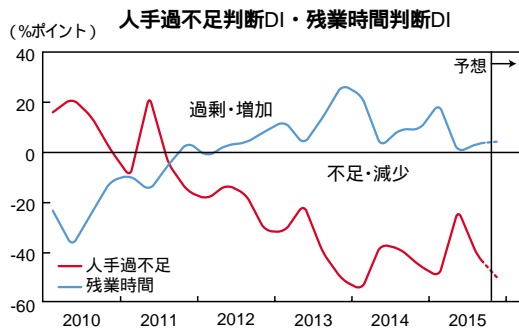
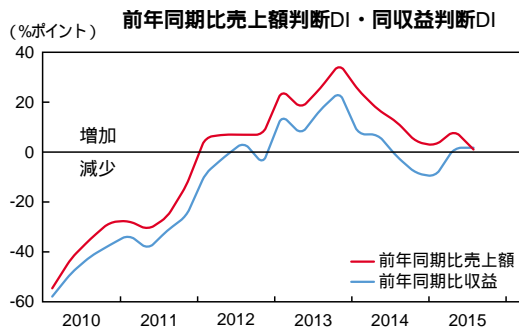
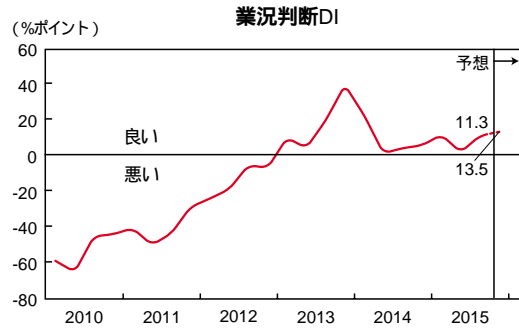
業況判断DIは11.3となり、4～6月期（2.1）にくらべ改善した。公共工事を主力とする企業のDIが浮上するとともに、内装、電気、配管といった設備工事を主力とする企業の景況感が改善した。2013年1～3月期以降、約3年間DIのプラスが続いている。この長さは1992年以来23年ぶりのこと。

前年同期に比べた売上額や収益は、やや伸び悩んでいる。人手は相変わらず不足しており、人手過不足判断DIは 41.2となった。とくに躯体工事などの職人が不足している模様。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは13.5と、7～9月期にくらべやや改善する形となった。ほぼ横ばいで、景況感に大きな変動はなさそうである。

ただ、人手不足感はさらに広がる見通し。当面の重点経営施策として「人材の確保」をあげる企業が引き続き半数を超えている。



7～9月期の景況 ..... 不動産需要に底堅さ、DIはリーマン前の水準に  
 10～12月期の予想 ..... 景況感さらに改善へ、物件不足も続く見通し

▶ 7～9月期の景況

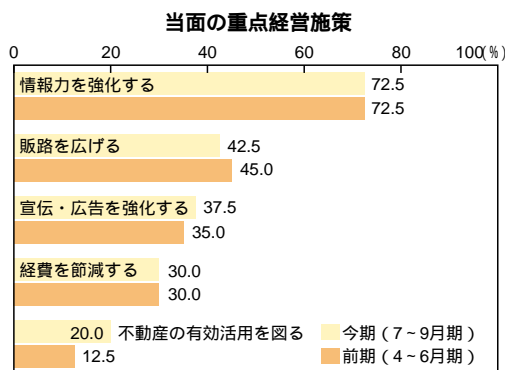
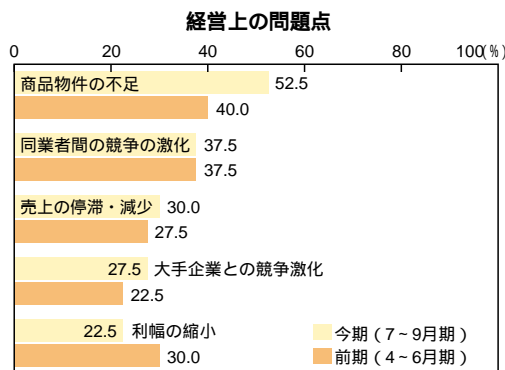
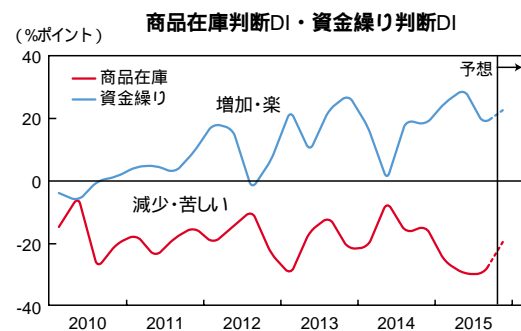
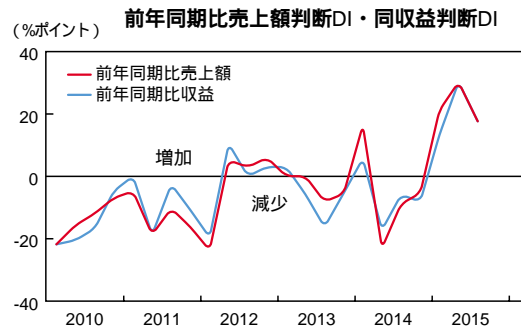
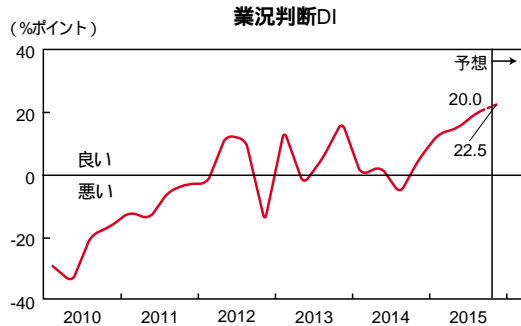
業況判断DIは20.0となり、4～6月期（15.0）に比べ改善した。改善は4四半期連続。DIの水準としては、20を上回っていたリーマンショックの前まで回復。「不動産取引が活発になってきた」との声も出ている。

売上額や収益については、これまでの増勢に鈍化がみられるが、前年同期比売上額判断DIも同収益判断DIもプラス域にあり。上向きのトレンドは変わっていない。物件価格は目立って上昇していないが、不動産需要には底堅さがうかがえる。

経営上の問題点には過半数の企業が「商品物件の不足」を指摘している。

▶ 10～12月期の予想

予想業況判断DIは22.5。景況感はさらに改善。商品在庫の減少傾向は、やや緩和されそうだが、物件不足は続くと思われる。



7～9月期の景況 ..... 景況感持ち直す、燃料価格下落などが寄与

10～12月期の予想 ..... 見通しDIは大幅改善、重点施策に「人材の確保」

7～9月期の景況

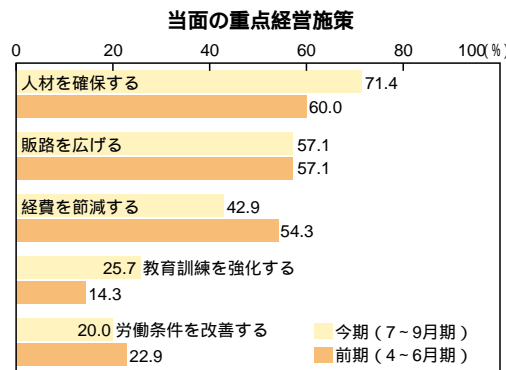
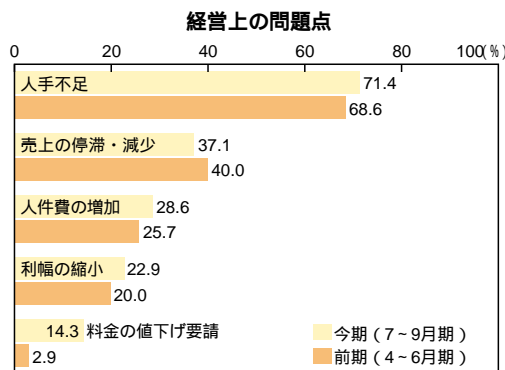
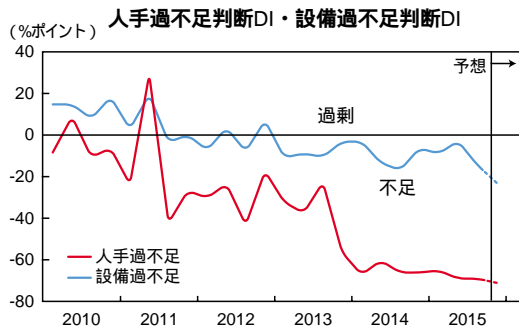
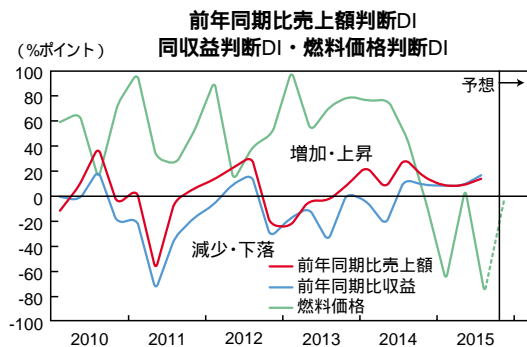
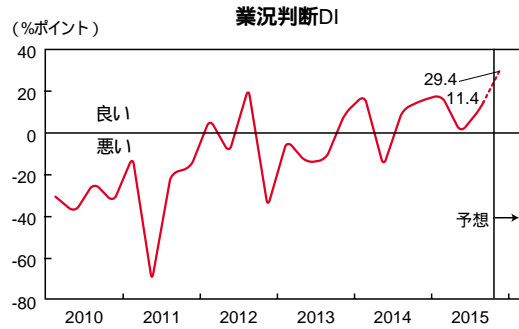
業況判断DIは11.4。4～6月期（0.0）に比べ改善した。前回調査時の予想は悪化（-5.9）だったが、予想に反してマインドは好転した。増収増益傾向が続いていることや燃料価格が下落したことが寄与したとみられる。足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは14.3〔増加〕、同収益判断DIは17.1〔増加〕。燃料価格判断DIは76.4〔下落〕。

人手不足は依然として深刻。過不足判断DIは68.6〔不足〕。「ドライバー不足で業務に支障をきたしている」などの声があり、経営上の問題点では7割以上の企業が「人手不足」をあげている。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは29.4。7～9月期に比べ大幅に改善する見通し。予想どおりならば、1991年1～3月期（33.4）以来の高い水準に。

人手不足は当分のあいだ解消されそうになく、また設備（車両）の不足感も広がりそう。当面の重点経営施策には「人材の確保」がトップ。



7～9月期の景況 ..... 景況感がマイナスに、三四半期ぶり

10～12月期の予想 ..... 予想は再びプラス、法人・個人とも改善へ

7～9月期の景況

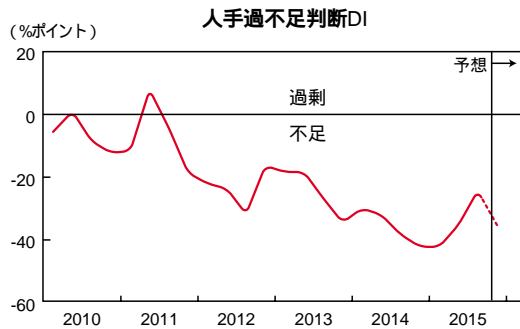
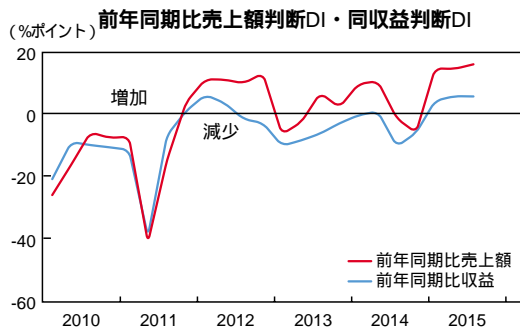
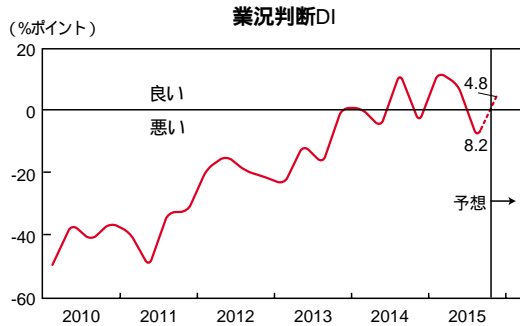
業況判断DIは 8.2。三四半期ぶりにマイナスに転じた。法人向けサービスと個人向けサービス、双方の景況感が悪化。とくに法人向けの悪化の幅が大きく、全体を押し下げた。自動車修理、清掃、ソフトウェア開発などが振るわなかった。

しかし、前年同期比売上額・同収益の判断DIをみると、ともにプラスとなっている。増収増益の基調は変わっていないとみられる。

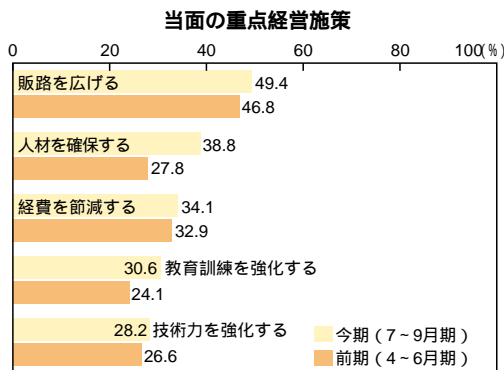
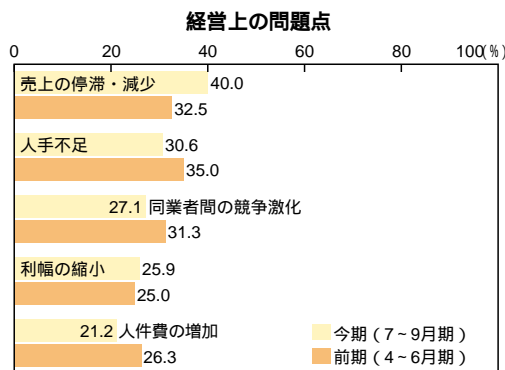
人手不足は慢性化している。過不足判断DIは 24.1と、深い不足域にある。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは4.8。7～9月期に比べ改善し、プラスに転じる見通し。法人向け・個人向け、ともに改善。



業況判断DI	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月 (予想)
法人向けサービス	35.8	19.7	0.0	16.7
個人向けサービス	23.5	10.4	20.0	11.5



# お客様から寄せられた声

\* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

## 製造業のお客様

バス・トラック系車種が好調。増産で忙しい。人手不足（パート）で正社員の残業が増加。人件費負担も大きくなっている。（自動車部品）

中国天津の爆発事故にともなう日系企業の操業度が低下。その影響が出ている。（自動車部品）

ナフサ価格に連動して材料単価が下落。売上に対する材料比率が低下した。（自動車部品）

世界的な景気減速で、主要顧客からの受注が減った。今後、急速な回復は望めず、新規受注の確保に注力する必要がある。（自動車部品）

国内景気の減速と部品の現地（海外）調達化で受注が減少。（自動車部品）

中国の景気減速やスマートフォン市場の低迷が気かり。（機械器具）

設備の老朽化にともない、その更新が必要になる。機械購入資金の手当てが今後の課題になりそう。（産業用電気機械器具）

7月末～8月初めの猛暑が業績に寄与。都市ガスの値下げでコストも低下。（製麺）

中小企業のお客様のなかには“不景気感”が漂っていて、大企業のような“好景気感”はない。（かまぼこ製造機械）

アベノミクス効果で自動車業界は好調。（鋳型中子）

中小企業の領域へ大企業が侵食しつつある。失注や単価の大幅な下落が起きている。（印刷）

8月から景気が後退している感じがする。（コンピュータモーター部品）

納得のいかないコストダウンの要求が多すぎる。（工業用パッキン製品）

若手社員がなかなか育たない。（金属熱処理加工）

大手鉄鋼メーカーの在庫調整が終わり、売上が回復すると期待していたが、いまのところ回復に至っていない。（砥石）

受注量が増加している。（梱包容器）

## 卸売業のお客様

仕入価格が高騰している。(精肉)

遊技機メーカーの生産低下が顕著。倒産・廃業も発生している。スロットル関係は大企業が苦戦していると思う。(組立機械)

設備投資が活発になっているようで、受注が増えている。(機械器具)

猛暑や天候不順が多少なりとも消費に影響しているのか、輸入物価上昇で多くの生活用品が値上がって財布の紐が

堅くなっているのか、業績が今ひとつ良くなってこない。(セキュリティ機器)

東京オリンピックや東北インフラ整備などを控え、道路資材関係の予算は中期的に増えるとみられる。当社も順調に成長していくと思われる。(道路資材)

人材の確保が極めて厳しい状況になっている。(酒類販売)

円安で仕入価格が上昇、価格に転嫁できず、利益が大幅に減っている。(木材)

## 小売業・飲食業のお客様

人員を増やしたので、少し業務の回転が良くなった。(フォークリフト)

今年の夏は、とくに暑かった影響でビールやハイボールなどがよく売れた。店舗ごとに販促のためのイベントを催したり、宣伝広告を充実させたりしたことがプラスになったと思う。(居酒屋)

大手量販店との販売価格の差が広がって、一般顧客の流出が止まらない。業務用商品の売上もジリ貧で、景気回復を感じない。(米穀店)

人手不足にともない人件費が上昇している。(喫茶店)

新店舗開店で売上増加。既存店舗の売上も高水準を維持。(麺店)

天候が良かったので増収となった。(清涼飲料水)

景気に足踏み感がある。これまで消費が増えていた時期なのに繁忙感がない。消費を抑えている感じがする。(イタリア料理)

## 建設業・不動産業のお客様

自動車関連企業の設備投資が大幅に増え、当社の業績を下支えした。官庁物件は相変わらず低調で足を引っ張っている。(配管設備)

大手住宅メーカーからは、安定した注文(住宅件数)をいただけるが、工期短縮を要求されて厳しい。社員を増やすかどうか悩む。(管工事)



「おかざき建設券」の利用がある。(一般住宅)

受注は順調に積み上がっているが、仕事量が増える年末にかけて人手不足が予想される。(内装工事業)

不動産取引が活発になってきた。8%の消費税に違和感がなくなってきたようだ。ただ、10%へ増税される時、かなり消費が落ち込むのではないかと心配している。(建設工事)

新築住宅の減少分を賃貸物件でカバーしている。店舗・事務所やリフォームが良くなっている。(建設・不動産)

仕事が少なくなる時期に、いろいろなところへ声をかけた。今まで付き合いのなかった会社や、個人的には仲が良いが仕事上でライバル関係にある会社などへも相談したところ、地元での仕事を紹介してもらえた。(電気工事)

1月頃から人手不足。求人しても手応えがない。大企業へ移っているのではないかと。仕事はあるが、利益が少ない。今後の対策を考えている。今夏はひどい暑さで、熱中症対策が大変だった。(給排水管設備工事)

このところ、代わり映えしない月日が流れている。東京オリンピックの開催決定は豊橋ではプラスに作用せず、むしろマイナスの影響が出ている。高齢で廃業する職人は増え、若者は3Kの業界を敬遠する。働き盛りの職人は豊橋を出て他所へ行き、資材の価格は上昇気味で良いことなし。今のわたしの心境です。(一般建築)

## 運輸業・サービス業のお客様

人手不足!!(貨物輸送)

ドライバー不足で業務に支障をきたしている。(铸件・飼料の輸送)

トヨタ自動車の動向に影響されるため、生産台数等の情報が重要。(一般貨物)

リニア関連の仕事の受注ができた。(測量・登記)

猛暑で患者が少なかった。(歯科医院)

景気は上向いているようだが、外部要

因(中国リスク、ギリシャ問題)で反転しかねないので慎重に見守りたい。(清掃業)

人手不足で人件費が増加。予定されている最低賃金の引上げや消費増税などが懸念材料。(ビル管理・清掃)

求人広告を掲載しても、まったく人が集まらない。自動車関連へ人材が流出しているのか、労働人口が減少しているためなのか、人材に関して不明なことが多い。(運輸業)